

化学メーカーのクラレ（本社東京、本店倉敷市酒津）が、海外事業展開を加速している。食品や洗濯洗剤の包装などに用いられる高機能樹脂の生産設備を米国やベルギーで相次ぎ増強し、さらなる成長を目指す。トップ就任2年目に入った伊藤正明社長（58）に今後の戦略と岡山、倉敷事業所の役割を聞いた。（重成啓子）

クラレ
伊藤 正明社長

海外生産能力を増強

岡山、倉敷は“マザー工場”

燃料費が下がったことが、接着剤や紙の加工材
大きい”
といった幅広い用途があ

大する上で、岡山事業所

に増設する”
ーグローバル展開を拡

るポバール樹脂の新プラ
ントが近く操業する。国
内は、愛媛県の西条事業
所で液晶ディスプレイに
用いる光学用ポバールフ
イルムの生産設備を来年
までに増設する”

の役割は。

と倉敷事業所（倉敷市）

テル繊維の生産を担うた
けでなく、技術開発の要

「いずれも生産性向上
のノウハウや新製品につ
ながる技術を蓄えてお
り、海外展開に欠かせな
い拠点だ。技術の伝承な
どで“マザー工場”と位
置づけしており、役割は従
来に増して大きい”
ー両事業所の強みをど
う評価するか。

「岡山事業所は14年、
自動車部品などに使われ
るビニロン長繊維で、製
造工程を大幅に効率化す
る技術を開発した。エバ
ール樹脂でも新製法を検
討しており、成果はグル
ー全体で共有していきた
い。研究機能を持つ倉
敷事業所は、光学用ポバ
ールフィルムやポリエス
地を大切にしていくな

ー2015年12月期の
業績見通しは。

「売り上げ、利益とも
過去最高を更新する見込
み。岡山事業所（岡山市）
でつくる人工皮革・クラ
リーノなど事業全体が堅
調に推移した。14年に買
収した米化学大手・デュ

就任2年目の戦略は

「足元での投資先は海
外が中心。ベルギーでは
食品包装などに使われる
エバール樹脂の生産能力
を年内に増強する。米国
では今年に入り、洗濯洗
剤の個包装などに用いる
水溶性ポバールフィルム
の生産能力を高めたほ



いとう・まさあき 1980年クラレ入社。岡山
事業所ビニロン・K-2生産・技術開発部長。取締
役常務執行役員経営企画本部担当、CSR本部担当
兼経営企画本部長などを経て、2015年1月から現
職。大阪大基礎工学部卒。兵庫県出身。